

病分類では、実際の救命救急センターでの診療状況に即した傷病分類を独自に作成し用いた。

### 【調査結果について】

救命救急センターの統計は各施設単位で行われているところがほとんどであり、また統計のとりかたも施設によってまちまちであり、今回統一した基準で全国調査が行われた意義は大きいと考えられる。今回の調査患者総数は107,237例に及び、この種の調査としては今までに類を見ない大規模なものとなった。

以下、調査結果について若干の考察を記す。

傷病分類では外傷が18.3%と最も多かったものの、脳血管・脳神経疾患17.3%、心・循環器疾患15.5%と近接しており、内因性・外因性の別では内因性疾患が7割以上を占めるという結果になった。以前は外傷を中心とする外因性疾患に対応するのが救命救急センターの主目的であったが、近年の交通事故

死者の減少、平均寿命の高齢化による各種内因性疾患の増加により、救命救急センターでも内因性疾患症例が主要な位置を占めていることが明らかとなった。

全症例の年齢層は内因性疾患が多いことを反映して、高齢層が多い結果となっている。しかし、従来若年層が多いといわれていた外因性疾患も、二相性のピークを認めるグラフとなっており、高齢者における外傷・外因性疾患が増加してきていることを示している。社会全体が高齢化している現在、この傾向は今後ますます進んでいくと思われる。今回の調査では高齢であるほど死亡率も高い結果も示されており、高齢者外傷症例への対応が必要と考えられる。

死亡症例については、死亡数・死亡率ともにCPAが最も高く死亡症例数では全体の過半数を占めていた。CPA以外で死亡数の多い傷病は脳血管・脳神経疾患、心・循環器疾患、外傷の順であり、症

例数の多い傷病が死亡数も多い傾向が認められた。

これらの傷病の死亡率では、心・循環器疾患のうち急性冠症候群の死亡率が 6.3%と比較的低率であった。これは急性冠症候群による心肺停止症例を「CPA」として別に統計をとったためと考えられる。そのため、この死亡率 6.3%という結果は「心肺停止にならずに救命救急センターに搬送された急性冠症候群の死亡率」といえる。これは他疾患についても同様である。

外傷の死亡率は 6.6%であったが、頭部外傷に限定すると死亡率 13.0%と高かった。死亡症例数も頭部外傷例が 796 例、非頭部外傷例が 508 例と頭部外傷例が多く、頭部外傷の合併の有無が外傷の予後に大きくかかわっていることが明らかとなった。

救命救急センターの平均滞在日数は 7.7 日であり、31 日以上長期入院症例も 4.2%存在した。長期入院症例の傷病分類では、外傷、脳血管・脳神経疾患、心・循環器

疾患の順に多く、概ね搬送症例数が多い傷病ほど長期入院症例も多いという結果となった。傷病別の長期滞在率では、熱傷が 15.7%と突出して高かった。これは長期にわたり専門的・集中的な治療が必要であるという熱傷治療の特異性によるものと考えられる。長期滞在症例の中には熱傷のように「継続して集中治療が必要な症例」と、「集中治療は不要だが医学的・社会的理由により転院が困難な症例」の 2 種類のパターンがみられると推測される。今回の調査データでは長期入院の原因まではわからないが、後者の場合、救命救急センターの病床を不必要に占有していることとなり、このような症例を速やかに後方病院へ転院するシステムを確立することが今後の課題である。

小児については小児症例を多く受け入れている施設は限られていた。

総務省消防庁による「救急・救助の現況 平成 21 年度版」による

と、平成 19 年中に全国で救急車により搬送された全患者 4,902,753 人のうち、新生児(28 日未満)・乳幼児(生後 28 日以降満 7 歳未満)・少年(満 7 歳以上 18 歳未満)をあわせた数は 490,382 人(全体の 10.0%)であるが、傷病程度を死亡・重症に限ると、死亡・重症の全患者 554,325 人のうち新生児・乳幼児・少年は 15,473 人(死亡・重症全体の 2.8%)に過ぎない。

今回の調査で小児症例は全症例中 3.4%であったことを考慮すると、小児症例が少ないのは小児の重症救急患者の絶対数が成人に比較して少ない、というのが一番の理由であると考えられる。小児の症例数が多い一部の施設は、中等症・軽症の患者まで積極的に受け入れているものと推定される。

また小児の死亡症例はほとんどが乳幼児・学童ともに CPA 症例であり、CPA を除くと小児症例の死亡率は 1%台であり、非常に低かった。

産科疾患は 249 例で全体の

0.2%であった。今回は分娩後出血や子癇など、産科疾患自体が主病名の場合に限定しており、妊産婦の脳出血や外傷は産科疾患にカウントしていない。産科疾患は専門的治療が必要なためか、受け入れ施設は限定されており、全 78 施設のうち 41 施設では産科疾患の受け入れがゼロであった。また、受け入れ施設のうち上位 2 施設で 141 例と産科疾患全体の過半数を占めていた。厚生労働省が定める総合・地域周産期母子医療センターが全国に指定されているが、今回調査した全国の救命救急センター 218 施設のうち、施設が総合・地域周産期母子医療センターに指定されている施設は 128 施設であった。回答があった 78 施設のうち総合・地域周産期母子医療センターに指定されているのは 41 施設であった。これら施設では、産科症例でも救命救急センターで受け入れるなどの周産期部門の連携の余地があるのではないかと考えられる。

施設間の結果では、施設によっ

て搬送患者数・救命救急センター入室患者数、死亡率、傷病の分布など、施設別で大きな差を認めている。そこで、各施設を病床数・運営形態・運用状況ごとに分類比較した。

救命救急センター病床数別の比較では、病床数が多い方が救命救急センター入室患者数が多く、平均滞在日数も長い傾向にはあるものの、それほど明確ではなかった。

独立型救命救急センターは病院併設型に比較して、年間入室患者数・救急車搬送件数は少なく、平均滞在日数は長かった。入室患者数と救急車搬送件数の値が近いのは院内他科への入院ができないためと考えられ、また院内転科が不可能なために平均滞在日数が延長している可能性がある。

運用状況別の比較では、外来・入院ともに独立した救急部が担当している施設よりも、それ以外の運用をしている施設の方が入室患者数・救急搬送件数が多かった。平均滞在日数は、外来のみ救急部

が担当している施設でより短い傾向にあった。

同じ救命救急センターでも、ER型の救命救急センターや、外傷などの外因性疾患を中心に患者を受け入れている従来型の救命救急センター、また循環器疾患や脳血管障害などの疾患に特化して患者を受け入れている専門特化型の救命救急センターなど、現在では様々な形の救命救急センターが存在している。地域の状況によって救命救急センターへのニーズは異なるため、一概にどの形が最適であるとはいえない。

今回の調査は救命救急センター在室時の予後調査であるので、生存退室した患者のなかには転棟・転院後にそのまま回復することなく死亡となった症例も含んでいる。また、傷病名だけの調査であり、重症度は加味していない。そのため、たとえば施設別の死亡率をそのままの形で比較することはできない（比較的軽症の患者を数多く受け入れた場合よりも、少数だが重症

の患者を受け入れたほうが死亡率が高くなるのは当然である)。

しかし、「実際にどんな患者が救命救急センターに入室し、どういった形で退室しているのか」という、本調査を始めるきっかけとなった疑問にはある程度回答することができたと考えている。

1975年に日本初の救命救急センターが指定されてから30年以上が経過したが、その間救命救急センターでの主要傷病が外傷から内因性疾患(特に脳血管・脳神経疾患と心・循環器疾患)へのシフトしていき、産科救急や小児科救急問題など、救急医療の状況は変化し続けている。救命救急センターに求められる機能も変化しているが、救急医療をどの様に改善していくか、今後議論を深めていく必要がある。今回の調査結果はそのための基礎データである。

## **E. 結論**

平成21年度は全国218の救命救急センターに調査の協力を要請し、回答が得られた78施設の入院

患者予後調査を行った。これにより全国の救命救急センターに入院した患者の背景を明らかにした。

傷病群

CPA	原疾患にかかわらず救急隊接触時あるいは来院時に心肺停止(Cardio-Pulmonary Arrest: CPA)であったもの。サブカテゴリとして「 <b>内因性 CPA</b> 」および「 <b>外因性 CPA</b> 」に分類した。原因不明の CPA は「 <b>内因性 CPA</b> 」に分類した。
脳血管・脳神経疾患	脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血などの脳血管障害、および髄膜炎、痙攣などの脳神経疾患。原因不明の意識障害を含む。サブカテゴリとして「 <b>脳血管障害</b> 」を分類した。
心・循環器疾患	急性冠症候群、心不全などの心疾患、および大動脈疾患、末梢血管疾患などの循環器疾患。脳血管障害は「 <b>脳血管・脳神経疾患</b> 」へ。食道静脈瘤や SMA 血栓症は「 <b>消化器疾患</b> 」へ分類した。サブカテゴリとして「 <b>急性冠症候群</b> 」を分類した。
呼吸器疾患	肺炎、気管支喘息、呼吸不全など。肺血栓塞栓症や、心不全による肺水腫は「 <b>心・循環器疾患</b> 」へ、腎不全による滲水は「 <b>腎・泌尿器疾患</b> 」へ分類した。
消化器疾患	消化管疾患(消化管穿孔、消化管出血など)、肝胆脾疾患。胃癌出血や大腸癌穿孔など、新生物が原因の場合は「 <b>新生物</b> 」へ分類した。サブカテゴリとして「 <b>消化管出血</b> 」を分類した。
腎・泌尿器疾患	尿路感染症、腎不全など。腎不全による滲水もここに分類した。
代謝・内分泌疾患	糖尿病性ケトアシトシス・甲状腺クリーゼ・電解質異常など。
新生物	胃癌出血、大腸癌穿孔、脳腫瘍による痙攣など、新生物が原因によって生じた疾患が主疾患の場合。
感染症・敗血症	破傷風、壊死性筋膜炎などの特殊感染症、全身感染症。肺炎や尿路感染症など、各カテゴリに当てはまる場合はそちらへ。
産科疾患	産後出血、羊水塞栓、子癇など。
精神疾患	精神疾患が主疾患の場合。
外傷	外傷性 CPA は「 <b>CPA</b> 」に分類した。サブカテゴリとして「 <b>頭部外傷</b> 」を分類した。「 <b>頭部外傷</b> 」は脳挫傷や頭蓋骨骨折など他覚的所見のある症例のみに限定し、頭部打撲や脳振盪のみ場合は除外した。
熱傷	電撃症を含む。気道熱傷を伴わない一酸化炭素中毒は「 <b>急性中毒</b> 」へ分類した。
急性中毒	医薬品中毒、ガス中毒など。気道熱傷を伴う一酸化炭素中毒は「 <b>熱傷</b> 」へ分類した。
環境障害	熱中症、偶発性対体温症、減圧症など。
窒息・溺水・縊首	内因性の窒息(腫瘍による気道閉塞など)は除く。
その他	上記のいずれにも当てはまらない場合。サブカテゴリとして「 <b>その他(内因性)</b> 」と「 <b>その他(外因性)</b> 」に分類した。傷病名不記載の症例は「 <b>その他(内因性)</b> 」に分類した。

表 1

## 調査協力施設の一覧

78 施設(順不同)

回収率 35.8%(78 / 218)

市立札幌病院	東京女子医科大学東医療センター	大阪府立病院機構 大阪府立急性期・総合医療センター
八戸市立市民病院	聖路加国際病院	国立病院機構 大阪医療センター
岩手医科大学附属病院	東海大学医学部附属病院	大阪府立泉州救命救急センター
国立病院機構 仙台医療センター	済生会横浜市東部病院	大阪赤十字病院
東北大学病院	横浜市立大学附属市民総合医療センター	大阪大学医学部附属病院
大崎市民病院	聖マリアンナ医科大学病院	関西医科大学附属枚方病院
いわき市立総合磐城共立病院	長野赤十字病院	大阪府立中河内救命救急センター
財団法人温知会 会津中央病院	諏訪赤十字病院	神戸市立医療センター中央市民病院
茨城西南医療センター病院	飯田市立病院	公立豊岡病院 但馬救命救急センター
国立病院機構 高崎病院	慈泉会相澤病院	県立姫路循環器病センター
前橋赤十字病院	新潟県立中央病院	奈良県立医科大学附属病院
獨協医科大学越谷病院	岐阜県厚生農業協同組合連合会 中濃厚生病院	鳥取大学医学部附属病院
さいたま赤十字病院	大垣市民病院	川崎医科大学附属病院
川口市立医療センター	岐阜県総合医療センター	国立病院機構 呉医療センター
防衛医科大学校病院	岐阜大学医学部附属病院	福山市民病院
千葉県救急医療センター	静岡赤十字病院	山口大学医学部附属病院
国保松戸市立病院	聖隷三方原病院	国立病院機構 関門医療センター
日本医科大学千葉北総病院	名古屋掖済会病院	高知赤十字病院
順天堂大学医学部附属浦安病院	社会保険中京病院	済生会福岡総合病院
駿河台日本大学病院	山田赤十字病院	九州大学病院
東邦大学医療センター大森病院	済生会滋賀県病院	北九州総合病院
昭和大学病院	大津赤十字病院	福岡大学病院
帝京大学医学部附属病院	京都第一赤十字病院	久留米大学病院
都立府中病院	大阪府三島救命救急センター	国立病院機構 熊本医療センター
日本医科大学付属病院	関西医科大学附属滝井病院	大分市医師会立アルメイダ病院
東京医科大学八王子医療センター	近畿大学医学部附属病院	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

表 2

### 全症例(107,237 例)の傷病分類

傷病群	症例数	全症例に 占める割 合(%)	傷病群(サブカテ ゴリ)	症例数	全症例に 占める割 合(%)	上位カテゴ リに占める 割合(%)
外傷*	19,647	18.3	頭部外傷	6,107	5.7	31.1
脳血管・脳神経疾患	18,501	17.3	脳血管障害	13,819	12.9	74.7
心・循環器疾患	16,572	15.5	急性冠症候群	6,503	6.1	39.2
消化器疾患	11,847	11.0	消化管出血	3,413	3.2	28.8
CPA	10,277	9.6	内因性 CPA	8,668	8.1	84.3
			外因性 CPA*	1,609	1.5	15.7
呼吸器疾患	7,781	7.3				
急性中毒*	5,199	4.8				
新生物	2,937	2.7				
腎・泌尿器疾患	2,155	2.0				
感染症・敗血症	2,136	2.0				
代謝・内分泌疾患	1,786	1.7				
熱傷*	1,281	1.2				
窒息・溺水・縊首*	592	0.6				
環境障害*	516	0.5				
精神疾患	347	0.3				
産科疾患	249	0.2				
その他	5,414	5.0	その他(内因性)	5,171	4.8	95.5
			その他(外因性)*	243	0.2	4.5
合計	107,237	100				

\*印がある傷病群が外因性疾患

内因性疾患 78,150 例 (72.9%)

外因性疾患 29,087 例 (27.1%)

合計 107,237 例 (100%)

表 3



### 全死亡症例(16,457例)の傷病分類

傷病群	死亡数	全ての症例		傷病別死亡率(%)	傷病群(サブカテゴリ)	死亡数	全ての症例		傷病別死亡率(%)
		数	占める割合(%)				数	占める割合(%)	
CPA	8,911	10,277	54.1	86.7	内因性CPA	7,444	8,668	45.2	85.9
					外因性CPA	1,467	1,609	8.9	91.2
脳血管・脳神経疾患	1,812	18,501	11.0	9.8	脳血管障害	1,689	13,819	10.3	12.2
					脳神経疾患	123	4,682	0.7	2.6
心・循環器疾患	1,314	16,572	8.0	7.9	急性冠症候群	407	6,503	2.5	6.3
					その他心・循環器疾患	907	10,069	5.5	9.0
外傷	1,304	19,647	7.9	6.6	頭部外傷	796	6,107	4.8	13.0
					非頭部外傷	508	13,540	3.1	3.8
呼吸器疾患	795	7,781	4.8	10.2					
消化器疾患	608	11,847	3.7	5.1	消化管出血	147	3,413	0.9	4.3
					その他消化器疾患	461	8,434	2.8	5.5
新生物	384	2,937	2.3	13.1					
感染症・敗血症	266	2,136	1.6	12.5					
窒息・溺水・絵首	190	592	1.2	32.1					
熱傷	150	1,281	0.9	11.7					
腎・泌尿器疾患	112	2,155	0.7	5.2					
急性中毒	86	5,199	0.5	1.7					
代謝・内分泌疾患	74	1,786	0.4	4.1					
環境障害	48	516	0.3	9.3					
精神疾患	5	347	0.0	1.4					
産科疾患	3	249	0.0	1.2					
その他	395	5,414	2.4	7.3	その他(内因性)	388	5,171	2.4	7.5
					その他(外因性)	7	243	0.0	2.9
合計	16,457	107,237	100.0	15.3					
CPAを除いた合計	7,546	96,960		7.8					

表4

### 31日以上入院症例(4,521例)の傷病分類

傷病群	31日以上入院する症例数	全ての症例数	31日以上入院症例の31日入院する割合(%)		31日以上入院する傷病の31日入院する割合(%)		31日以上入院する症例数	全ての症例数	31日以上入院症例に占める割合(%)	
			割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)			割合(%)	割合(%)
外傷	1,470	19,647	32.5	7.5	525	6,107	11.6	8.6	8.6	8.6
脳血管・脳神経疾患	949	18,501	21.0	5.1	頭部外傷	945	13,540	20.9	7.0	7.0
					脳血管障害	822	13,819	18.2	5.9	5.9
心・循環器疾患	455	16,572	10.1	2.7	脳神経疾患	127	4,682	2.8	2.7	2.7
					急性冠症候群	123	6,503	2.7	1.9	1.9
消化器疾患	309	11,847	6.8	2.6	その他心・循環器疾患	332	10,069	7.3	3.3	3.3
					消化管出血	36	3,413	0.8	1.1	1.1
呼吸器疾患	270	7,781	6.0	3.5	273	8,434	6.0	3.2	3.2	
CPA	251	10,277	5.6	2.4	214	8,668	4.7	2.5	2.5	
熱傷	201	1,281	4.4	15.7	内因性CPA	37	1,609	0.8	2.3	2.3
					外因性CPA	214	8,668	4.7	2.5	2.5
感染症・敗血症	172	2,136	3.8	8.1						
新生物	108	2,937	2.4	3.7						
腎・泌尿器疾患	77	2,155	1.7	3.6						
代謝・内分泌疾患	57	1,786	1.3	3.2						
急性中毒	54	5,199	1.2	1.0						
窒息・溺水・縊首	27	592	0.6	4.6						
環境障害	23	516	0.5	4.5						
精神疾患	8	347	0.2	2.3						
産科疾患	3	249	0.1	1.2						
その他	87	5,414	1.9	1.6	その他(内因性)	81	5,171	1.8	1.6	1.6
					その他(外因性)	6	243	0.1	2.5	2.5
合計	4,521	107,237	100.0	4.2						

表5

乳幼児(0～6歳、2,520例)の傷病分類

傷病群	症例数	乳幼児の全 症例に占め る割合(%)	傷病群(サブ カテゴリ)	症例数	乳幼児の全 症例に占め る割合(%)	上位カテゴリ に占める割 合(%)
外傷	512	20.3	頭部外傷	236	9.4	46.1
			非頭部外傷	276	11.0	53.9
呼吸器疾患	487	19.3				
脳血管・脳神経疾患	417	16.5	脳神経疾患	403	16.0	96.6
			脳血管障害	14	0.6	3.4
消化器疾患	263	10.4	消化管出血	6	0.2	2.3
感染症・敗血症	198	7.9				
CPA	161	6.4	内因性 CPA	137	5.4	85.1
			外因性 CPA	24	1.0	14.9
熱傷	129	5.1				
窒息・溺水・縊首	33	1.3				
腎・泌尿器疾患	28	1.1				
急性中毒	20	0.8				
心・循環器疾患	17	0.7	急性冠症候群	0	0.0	0.0
代謝・内分泌疾患	12	0.5				
新生物	10	0.4				
環境障害	3	0.1				
精神疾患	1	0.0				
その他	229	9.1	その他(内因性)	197	7.8	86.0
			その他(外因性)	32	1.3	14.0
合計	2,520	100.0				

表 6

### 学童(7～12 歳、1,077 例)の傷病分類

傷病群	症例数	学童の全症 例に占める 割合(%)	傷病群(サブカ テゴリ)	症例数	学童の全症 例に占める 割合(%)	上位カテゴ リに占める 割合(%)
外傷	579	53.8	頭部外傷	191	17.7	33.0
			非頭部外傷	388	36.0	67.0
消化器疾患	103	9.6	消化管出血	1	0.1	1.0
呼吸器疾患	100	9.3				
脳血管・脳神経疾患	99	9.2	脳神経疾患	80	7.4	80.8
			脳血管障害	19	1.8	19.2
感染症・敗血症	43	4.0				
CPA	33	3.1	内因性 CPA	22	2.0	66.7
			外因性 CPA	11	1.0	33.3
熱傷	17	1.6				
急性中毒	10	0.9				
代謝・内分泌疾患	8	0.7				
新生物	7	0.6				
腎・泌尿器疾患	7	0.6				
窒息・溺水・縊首	7	0.6				
心・循環器疾患	5	0.5	急性冠症候群	0	0.0	0.0
精神疾患	3	0.3				
環境障害	1	0.1				
その他	55	5.1	その他(内因性)	50	4.6	90.9
			その他(外因性)	5	0.5	9.1
合計	1,077	100.0				

表 7

乳幼児(0～6歳)死亡症例(173例)の傷病群

傷病群	死亡症例数	傷病別の症例数	死亡症例全例に占める割合(%)	傷病別死亡率(%)	傷病群(サブカテゴリ)		死亡症例数	傷病別の症例数	死亡症例全例に占める割合(%)	傷病別死亡率(%)
					リ)	リ)				
CPA	139	161	80.3	86.3	内因性 CPA	119	137	68.8	86.9	
					外因性 CPA	20	24	11.6	83.3	
外傷	7	512	4.0	1.4	頭部外傷	7	236	4.0	3.0	
					非頭部外傷	0	276	0.0	0.0	
呼吸器疾患	7	487	4.0	1.4						
窒息・溺水・縊首	5	33	2.9	15.2						
熱傷	3	129	1.7	2.3						
脳血管・脳神経疾患	3	417	1.7	0.7						
感染症・敗血症	2	198	1.2	1.0						
心・循環器疾患	1	17	0.6	5.9						
新生物	1	10	0.6	10.0						
その他	5	229	2.9	2.2						
合計	173	2,520	100.0	6.9						
CPAを除いた合計	34	2,359		1.4						

表8

学童(6～12歳)死亡症例(47例)の傷病群

傷病群	死亡症例数	傷病別の症例数	死亡症例全例に占める割合(%)	傷病別死亡率(%)	傷病群(サブカテゴリ)		死亡症例数	傷病別の症例数	死亡症例全例に占める割合(%)	傷病別死亡率(%)
					リ	非頭部外傷				
CPA	29	33	61.7	87.9	内因性 CPA		18	22	38.3	81.8
					外因性 CPA		11	11	23.4	100.0
外傷	9	579	19.1	1.6	頭部外傷		6	191	12.8	3.1
					非頭部外傷		3	388	6.4	0.8
脳血管・脳神経疾患	3	99	6.4	3.0						
心・循環器疾患	2	5	4.3	40.0						
呼吸器疾患	1	100	2.1	1.0						
窒息・溺水・縊首	1	7	2.1	14.3						
その他	2	55	4.3	3.6						
合計	47	1,077	100.0	4.4						
CPAを除いた合計	18	1,044		1.7						

表9

救命救急センター病床数と受け入れ件数・滞在日数・死亡率

病床数	施設数	平均救命救急センター入室患者数(人)	平均救急車搬送件数(件)	平均滞在日数(日)	死亡率(%)	CPAを除いた死亡率(%)
10～19床	7	1054.6	3661.0	4.5	12.2	5.5
20～29床	18	1126.8	3023.9	6.6	18.8	8.5
30～39床	31	1442.9	2926.9	6.8	15.2	8.0
40～49床	11	1093.9	1905.2	11.2	21.6	10.3
50床以上	8	1847.9	4219.0	8.5	13.1	7.2
未回答	3					

表 10

救命救急センター運営形態と受け入れ件数・滞在日数・死亡率

運営形態	施設数	平均救命救急センター入室患者数(人)	平均救急車搬送件数(件)	平均滞在日数(日)	死亡率(%)	CPAを除いた死亡率(%)
独立型	4	1152.3	1245.3	12.6	20.8	7.7
併設型	74	1386.9	3136.6	7.5	15.7	8.1

表 11

救命救急センター運用状況と受け入れ件数・滞在日数・死亡率

運用状況	施設数	救命救急センター入室患者数(人)	救急車搬送件数(件)	平均滞在日数(日)	死亡率(%)	CPAを除いた死亡率(%)
外来・入院とも独立した救急部が主に担当	47	1177.9	2597.5	8.5	19.0	8.3
外来のみ救急部が主に担当し入院は主に各科が担当	15	1682.9	4072.8	5.9	12.4	8.0
外来も入院も主に各科が担当	9	1597.3	3313.9	8.6	12.5	7.4
その他	7	1750.7	3958.3	5.9	12.2	8.0

表 12



# 全症例の年齢区分

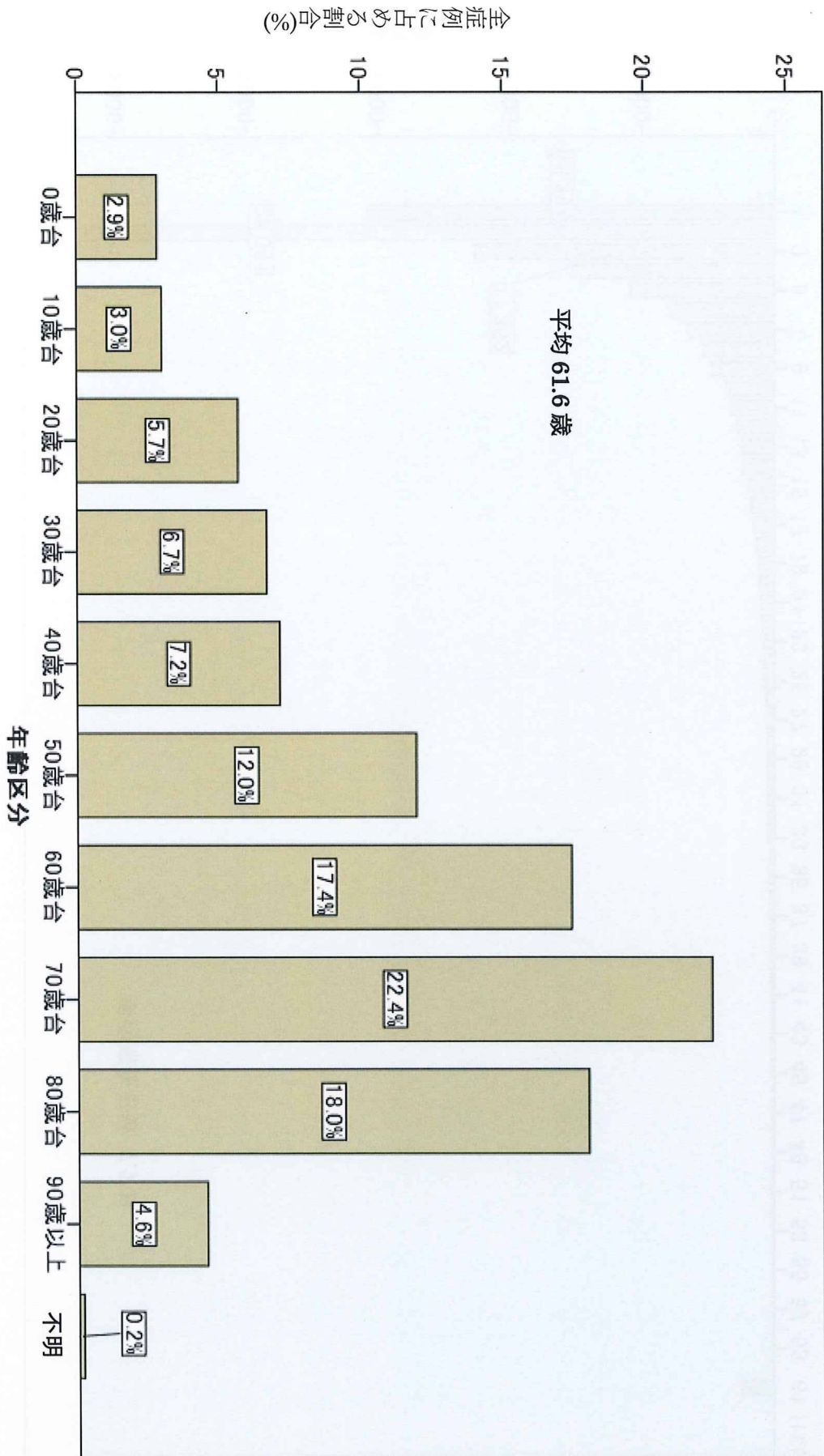


図1

救命救急センター滞在日数別症例数

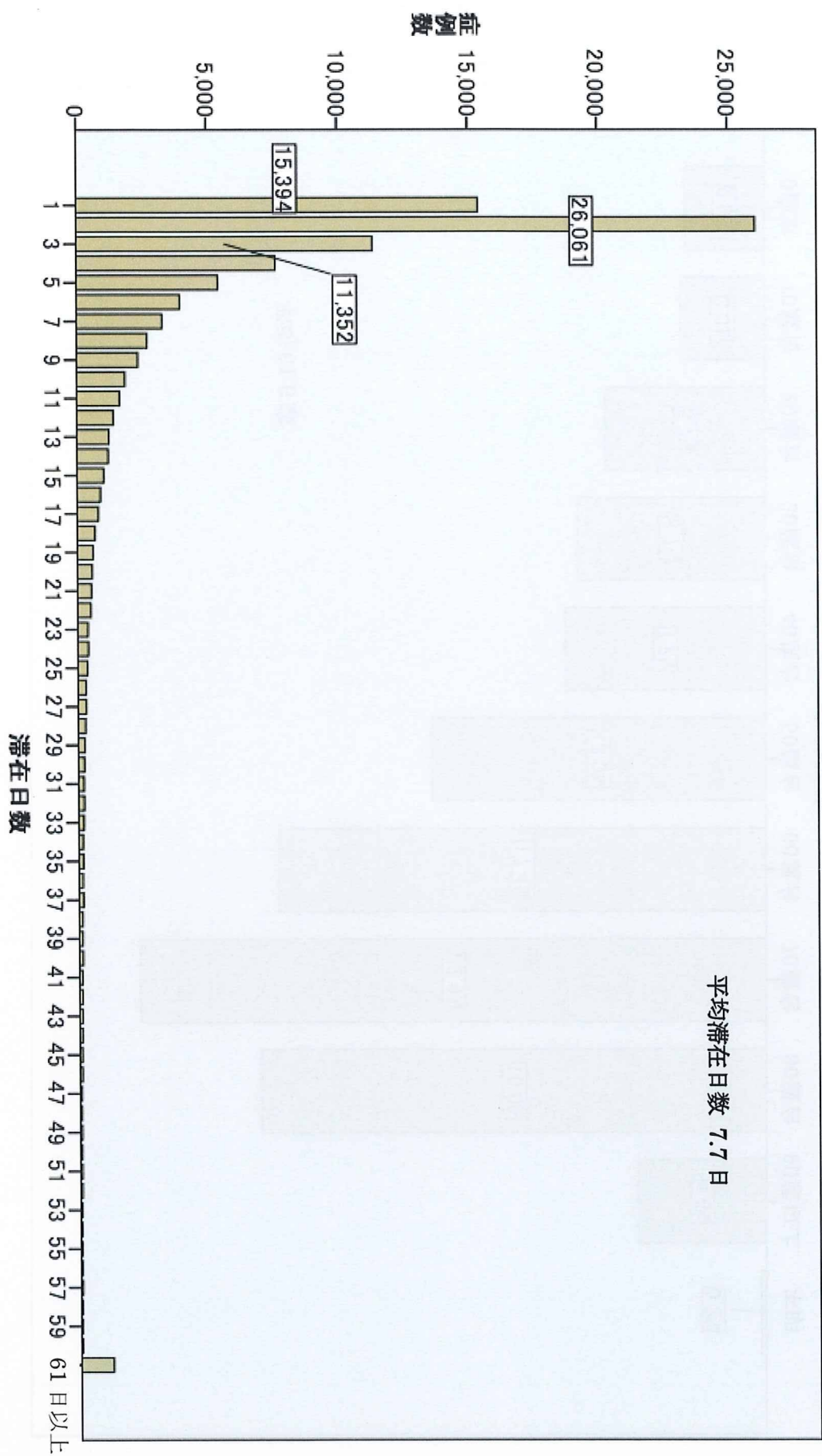
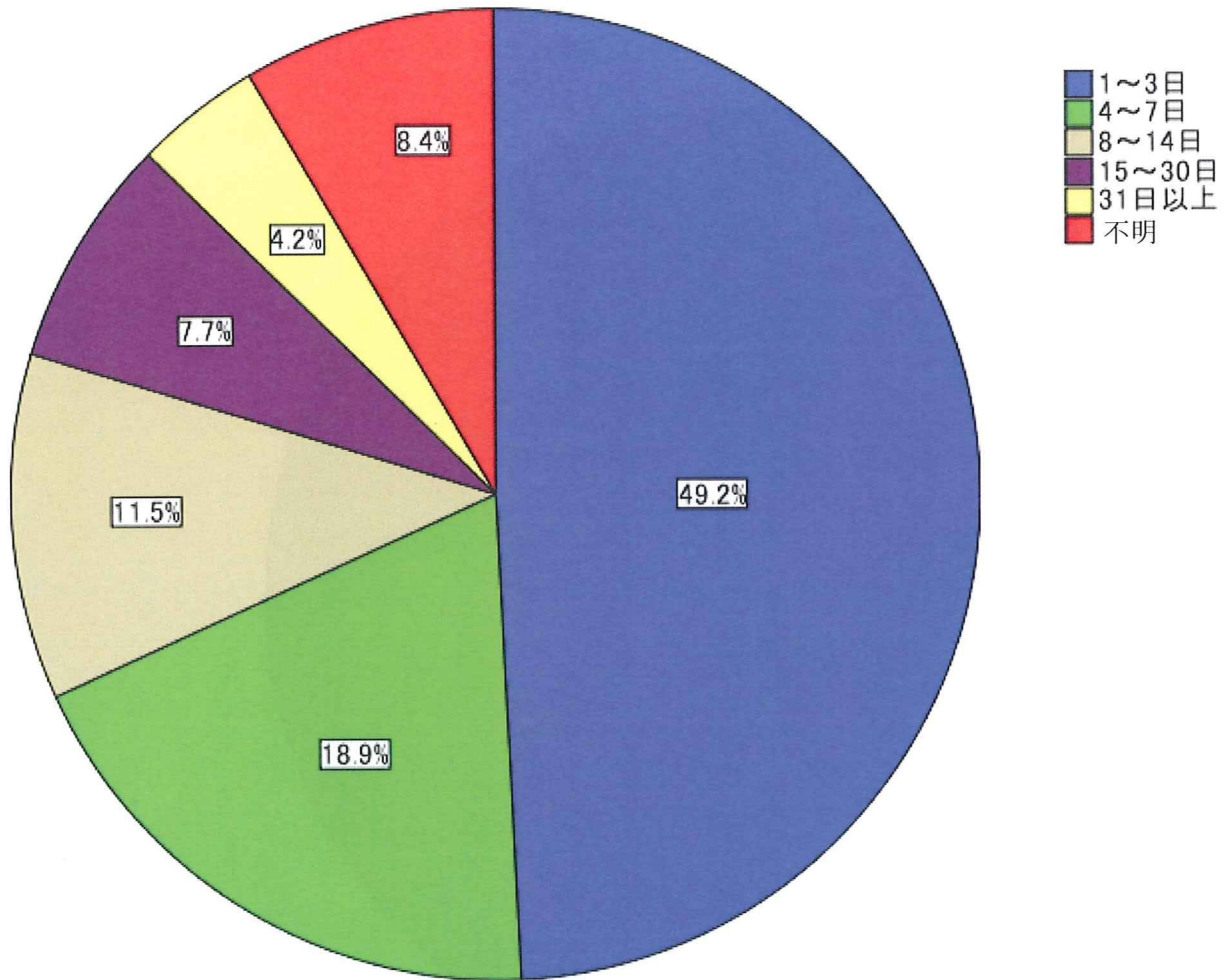


図2

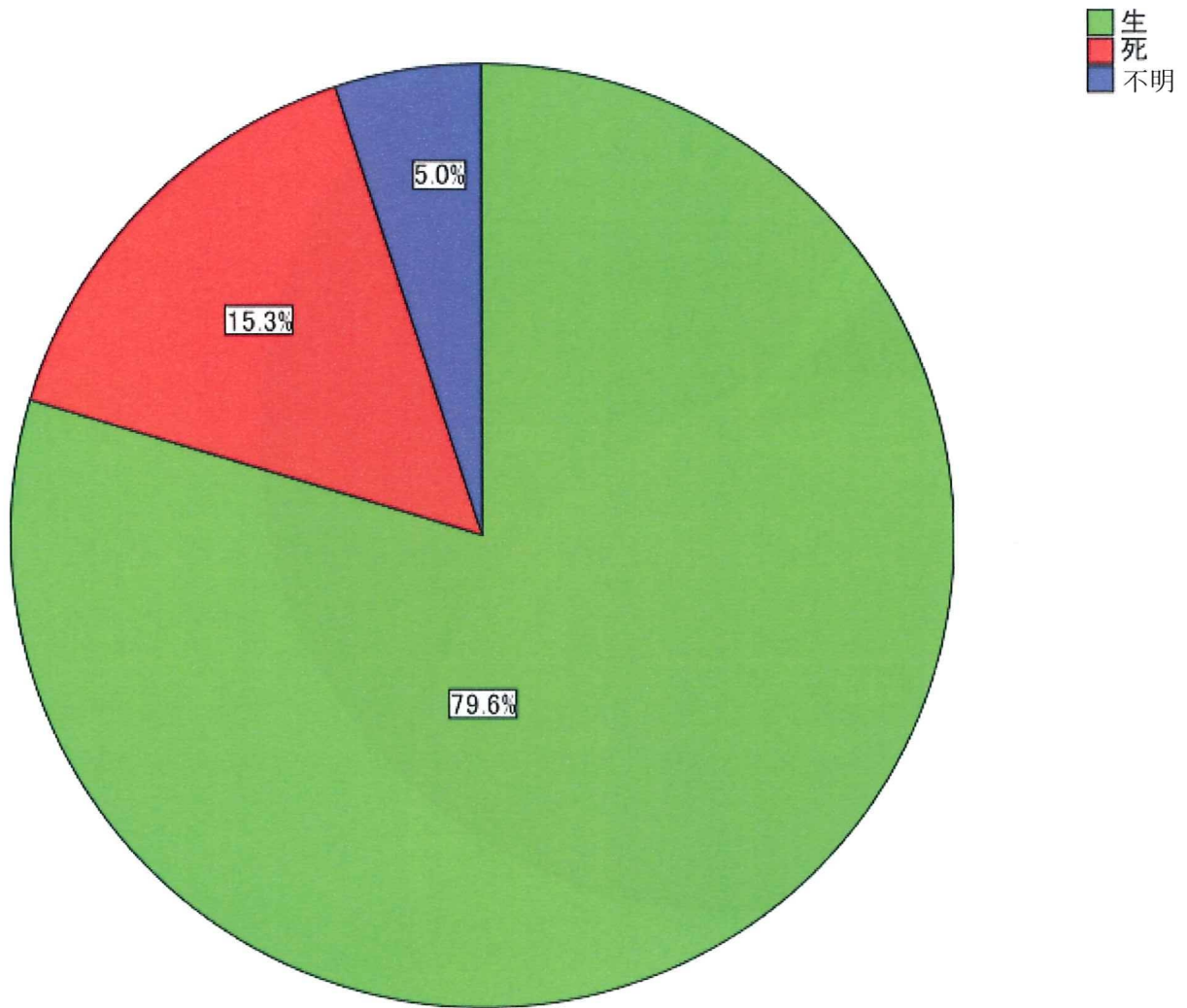
### 救命救急センター滞在期間別症例数の割合



滞在1～3日	52,807例 (49.2%)
滞在4～7日	20,321例 (18.9%)
滞在8～14日	12,371例 (11.5%)
滞在15～30日	8,205例 (7.7%)
滞在31日以上	4,521例 (4.2%)
不明	9,012例 (8.4%)
合計	107,237例 (100%)

図3

転帰



生存退室	85,407例 (79.6%)
外来死亡及び死亡退室	16,457例 (15.3%)
不明	5,373例 (5.0%)
合計	107,237例 (100%)

図 4